



京都社会人大学校

北近畿校通信

第49号 2023年11月

北近畿校運営委員会

事務局発行

☎080-2511-1751

カメムシ大量発生！ 今冬は大雪か、 はたまた暖冬か？

日中は夏日になるような11月の始まり、カメムシがブンブン羽音を立てて飛び回っています。気象情報ではこの冬は暖冬の予報ですが、「カメムシが多い年は大雪」の言い伝え？もあります。はてさて…朝夕はぐっと冷え込み、気温差で体調を崩していませんか？コロナ感染も収束してはいなさそう（よく分かりませんが）、インフルエンザも早くから流行しているようです。しっかり体調を整え、11月12月と今年もあと各2回の講義、しっかり楽しみましょう！



運営委員はできないけど受付だけなら、と講座運営をお世話になっているみなさま、本当にありがとうございます。今年もあと少し、ご協力をお願いいたします。

運営委員は常時募集中です！来期やってみようかな…という方、お待ちしております。

すご技講座の日程

が大幅に変更になっています。ご注意ください。

★10/25→11/8に変更

長田野工業団地・GSユアサ

★11/22→12/6に変更

長田野工業団地・神戸製鋼

★12/13(予定通り)

「日本茶を味わう」

会場・ハピネスふくちやま

(福知山市役所隣接)

★2024/3/6(7月から延期したものの) 日東精工

集合場所等は別途連絡します。他講座からの振り替え受講などを希望される場合はお問い合わせください。

10月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのもあります。ご了承ください)

◆時事問題講座 10月3日

「外国人技能実習生の実態」

—廃止しかないこの制度—

講師：鳥本敏明氏

技能実習制度本来の目的は発展途上国への人材育成支援であった。しかし実態は低賃金労働者の確保である。日本へ行けば仕事が有り金儲けができると言われ借金をして来た若者達（ベトナム12.5万人、インドネシア4.3万人他）が強制労働や中間搾取にあい、令和4年には44,657人もの実習実施困難者が出ている。失踪が多く支援活動としてシェルターが必要となり設置したが、人権侵害問題を多く見せている。新たな制度が必要である。それには人材育成機能、監理、支援、保護の在り方から日本語能力の向上方策についてまで検討されなければならない。



外国人実習生制度の課題は雑誌、新聞等の報道で知識はあったもののその実態については今日の講座で良くわかりました。ただ、ヨーロッパ等では多くの難民を受け入れ生活し社会に溶け込んでいることを考えると、日本では実質鎖国状態で、都合よく外国人を利用しているのはどうかと思います。

近所に単身者用アパートが増え、外国人の方も多く入居されています。(中略)「この人たちは元気で楽しく働いているのかな」とふと思います。



◆寄席芸鑑賞講座 10月12日
「上方唄を学び楽しむ」講師:浅野美希氏

大江町出身、府立医大の元看護師と言う珍しい経歴の持ち主。上方寄席、三味線奏者であり、上方唄松浪流の、松浪千粋さん(まつなみせんすいさん)……同一人物です。寄席で演奏される寄席囃子(出囃子と下げ囃子)を陰で演奏されています。(陰で…て、勿体ないビジュアル。)

前座の方の出囃子は「石段」と言う曲、二つ目さんには「赤猫」と言う曲が、使われる事が、多い。トリを務められる方々の出囃子には、格の高い「中の舞」「野崎」「だんじり」等が使われる。はめものとは、落語の途中に、情景描写や、心理描写の演出として演奏される、お囃子。(江戸落語ではあまり無いようですが。)

「伊勢音頭」、「扇蝶」、「船唄」、雪の降る様子を表した「雪合方」(ゆきのあいかた)、夜道を歩く時の不気味さを表した「すごき」落語、『貧乏花見』に使われる「まけない節」『たちぎれ線香』に使われる「ゆき」と言う何とも悲しい曲。

又、寄席の踊りや、唄の、曲として「かっぼれ」「桃太郎」「奴さん」「赤ゲット五段返し」「せつほんかいな」等々、盛り沢山の曲を紹介、演奏して下さり柔らかく、心地よい歌声を堪能させて頂きました。

いやあ～すごく圧倒されました。前回の浪曲と三味線の時とは違い、落語の内容にそって決められた曲との事「たちぎれ線香」は、印象に残りました。こういう機会がなければ知識は全く無かったので12月が、また楽しみになりました。

三味線と唄いと満喫させて頂きました。聞く中で色々な落語の、シーンが、今日の三味線によって思い浮かびました。(地獄八景亡者の戯れ、七度狐等)

寄席囃子の種類の多さに驚きました。寄席の間に陰で演奏されるのは勿体ないと思いました。

専門用語が次から次へと飛び出し、興味深く聴くことができました。



◆写真講座 10月17日
「コスモス畑」～秋色を探しに行こう～
講師:四方智基氏

前回の振り返りは「街の風景」。ちょっとレトロな感じの新町商店街の雰囲気白黒写真にぴったりです。「何か面白いものはないか!？」と探されたみなさんの、それぞれの視点が面白い写真になっています。

最高のお天気のなか訪れた綾部コスモス園、満開には程遠く残念でしたが、他に見物客がないので自由にパシャパシャ。コスモスだけでは不満なので、秋のバラまつり開催中のバラ園へ移動。こちらは色とりどりのバラが咲きそろっていました。見物にいられていた市民の方が、じ～っと受講生を見ておられ??と知っている、上から下から前から後ろから一つのバラを熱心に撮影している受講生の姿に見とれていたのだとか。今日もあつという間に2時間が過ぎました。



秋桜が残念!! バラは光の調整がむずかしい。

カメラの操作や撮り方が感覚的にわかってきたように思います。カメラがおもしろくなってきました。

秋晴れの中でとても良い時間が過ごせました。春のバラと秋のバラの違いや光の陰影など、勉強になりました。



◆歴史講座 10月18日

ロシアのウクライナの歴史的關係で見えてくるもの
講師：鈴木元氏

ロシアのウクライナ侵略は国際的に確定していたはずの国境を軍力で変更しようとしているもので、到底認められるものではないということを前提に、なぜこんなことがおきてしまったのか、両国とその周辺国の歴史を踏まえて解説していただきました。

11世紀・12世紀頃に東ヨーロッパ最大のキリスト教国であったキエフ大公国がモンゴルによって滅ぼされ、モスクワ大公国、ロシア帝国等次々と分割・支配されていく中でウクライナ人の国家は消滅するが、ウクライナの文化は途絶えることなく続く。その後、ウクライナはロシア革命によるソビエト連邦の成立に伴いロシア連邦に編入されるが、ロシアとは対等な関係ではなく、スターリンによる食糧略奪はじめ多くの苦難を経て1991年のソビエト連邦崩壊によりようやく完全独立を果たす。

今回のロシアのウクライナ侵攻を考えると、かつての戦争が経済的利益を求めることが目的であったが、今回の侵攻は経済的な利益を目的とするものではなく、「ロシア帝国」の覇権の復活を目指すことが根底にあるとみる。同様に中国が中華民族の復活を目指し台湾併合をあきらめないというのも同じ考えではと。

講義の中で「これはあくまで私の考えです」という言葉が時々挟み込まれます。歴史的な背景を考えると、明確に判断・理解することが難しい問題であることを認識した講義でした。



興味深く聞けました。ウクライナ戦争は続くのですね。最初の頃に比べると、自分の気持ちも失速するのを感じています。

難しいウクライナ問題を解説していただき、モヤモヤの疑問がかなり解りました。核保有国での条約を破り、戦争につながったことは、なんとしても納得できないことです。

「秋晴れや
歴史は過去のものならず」
「ウクライナハ
今できる事 鶯の笛」

府立植物園に行ったことはありますが、ずいぶん前でほとんど覚えていません。世の中に色々な形の花や種がありますが、それぞれ子孫を残すための結果で、尊い命が受け継がれているのだなあと思いました。



たくさんの写真とともに説明していただき、よく分かりました。高山植物の花の色が鮮やかなのは紫外線から守るためということを初めて聞いて興味深かったです。

◆自然科学講座 10月19日

「植物の魅力語る(府立植物園を事例として)」

講師：西原昭二郎氏

今回の講座はスライドを見ながら府立植物園の歴史や園内の植物について語っていただきました。

2024年で100年ということですが、植物園を維持していくには職員のみなさんの苦労は並大抵のものではなかったかと思います。台風で多数の倒木にあたり、鴨川の氾濫による被害や、終戦後米軍住宅用地として接収され、返還後の再建などです。

普段私たちは（筆者だけかもしれませんが）草花・樹木は苗を買ってきて育てたものは別として、自生しているものは中々名前や、ましてやどういった植物なのか覚えきれません。講師の先生には申し訳ありませんが、講義のあった当日夜、家人に「どんな植物の講義があったん？」と聞かれてもほとんどは答えることができませんでした。その中で「ハナショウブ」にはアヤメ科の多年性植物で3種類の「カキツバタ」「ハナショウブ」「アヤメ」とありますが、違いを説明しろと求められてもわかりません。「カキツバタは紫色だったかなあ」というような調子でした。バイカモも間違いやすそうですが、京都では絶滅しているということです。逆にこの植物園では、桜の種類は日本一と言われているそうです。

植物が生き延びるための種子散布の仕組みとして、動力、風力、水力、動物散布型があり、自身のはじけ散る自動散布型もあるということでした。他に外国の植物の紹介で「モンキーオーキッド」や食虫植物の説明が印象に残りました。

◆漢字学講座 10月26日

「箒」で「掃く」のが「婦」人の仕事?! 講師:久保裕之氏

今月の漢字は「祭」一画めから書く「月」の部分は、肉の意味。「又」の部分は手。「示」の部分は、神にお供えする台。なので、祭とは、神にお供えする事。

今日のテーマ、先ず「女」の文字は、跪く人の姿。では、女性は誰に対して跪いているのか? 男性に対して、という説もあるが、神、先祖に対して、という説も。

「妻」の文字は、髪にかんざしを手でさして正装いる様。「夫」の文字も正面を向いた男の人が、かんざしをさしている様。なので、「夫婦」とは結婚式の様子。

「婦人」の「婦」は、家を箒で掃くのが女の仕事か?と差別用語の様に言われ、敬遠された事があるが、実は女の人が神棚を清める様を表した文字で、家の中で重要な役割を担っているという意味。

「母」は「女」の文字に、おっぱい(点々)を付けたのが「母」。「子」は古代、男性を表していた。(孔子、孟子、小野妹子等) 貴族、平安の時代から何故か、女性の名前に付ける様になった。

「好」は、お母さんが子どもを慈しむ様子を表した文字。「妃」は、王様に対して跪く女の人。

「漢」は、中国の水の近くにあった国。なので、さんずいへんが付いている。(元々は、男の意味でもあった) 漢の国が勢力を持ち強大になった為、中国の代名詞の様になり、漢字、漢方薬の様な言葉が生まれた。

「奴」は、女性を戦利品としてかっ拐う様子。(奴隷の)

「妾」みだり 「妨」さまたげる 「妖」あやしい 「妬」ねたみ 「嫌」いや 「媚」こびる。こういったイメージの悪い文字には、男偏ではなく女偏が用いられているのは、多分…男性が作った文字だからかな?という事でした。



今回も大変興味深く聞かして頂きました。感心ばかりでついていくのが、やっとです。

男、女→み♀の記号は、漢字から来たのでしょうか?

スペースが余ったので…

ちょこっと脳トシ



例題のように困から始まって
 困で終わる言葉を考えてください。

例題

| | | |
|---|---|---|
| お | で | ん |
|---|---|---|

| | | |
|---|--|---|
| お | | ん |
|---|--|---|

| | | | |
|---|--|--|---|
| お | | | ん |
|---|--|--|---|

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| お | | | | ん |
|---|--|--|--|---|

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|---|
| お | | | | | ん |
|---|--|--|--|--|---|

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|---|
| お | | | | | | ん |
|---|--|--|--|--|--|---|